

病害虫防除技術情報第9号

令和5年8月22日
三重県病害虫防除所

イネカメムシの発生が多くなっています 出穂直後と出穂2週間後の2回薬剤散布が有効です

- 1 対象作物：水稻（普通期）
- 2 対象病害虫名：イネカメムシ
- 3 発生状況
 - (1)予察灯（松阪市嬉野川北町、100W水銀灯）におけるイネカメムシの誘殺数（7月第4半旬～8月第3半旬）は389頭（平年50.9頭）と多い状況です（図1）。
 - (2)巡回調査圃場（8月第1～2週）では、発生圃場率は12.3%（平年5.4%）と高く、圃場あたり虫数は0.24頭（平年0.08頭）と多い状況です。
 - (3)早期水稻の収穫が進んでおり、周辺の水田より出穂が遅い圃場では集中的に加害されるおそれがあります。
- 4 防除対策
 - (1)イネカメムシは出穂直後の穂を選択的に加害するため不稔症状が発生しやすいです。
 - (2)イネカメムシによる不稔や斑点米の被害を抑制するには、出穂直後と出穂2週間後の2回薬剤散布が有効です。1回目の散布時期が早いため、出穂時期をあらかじめ把握して適期に散布することが重要です。
 - (3)薬剤は三重県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/mie> で検索することができます。
 - (4)薬剤散布の際は、周辺圃場の収穫状況を考慮してドリフトに注意してください。

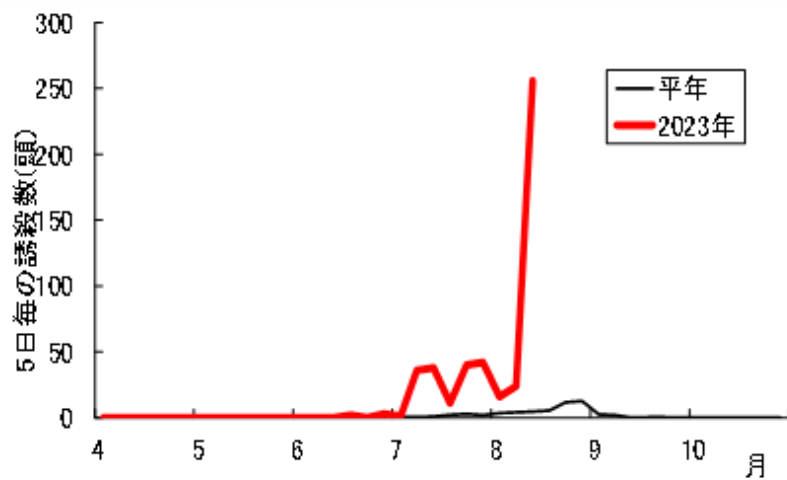


図1 予察灯におけるイネカメムシの誘殺数
(松阪市嬉野川北町、100W水銀灯)



写真1
イネカメムシ若齢幼虫



写真2
イネカメムシ終齢幼虫



写真3
イネカメムシ成虫

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。